



新田サドベリースクール

SHINDEN SUDBURY SCHOOL

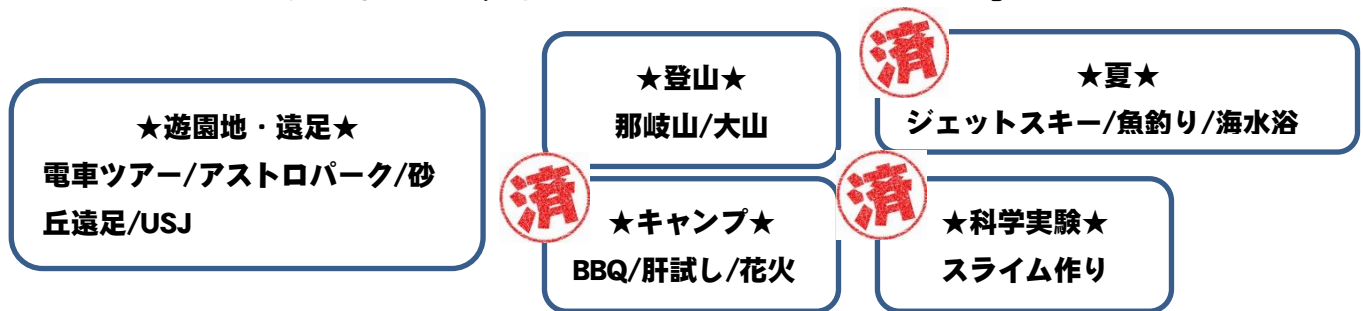
新田サドベリースクールニュースレター

みなさま、こんにちは！中国地方は梅雨が明け、セミの鳴き声も日に日に賑やかになっています。さて、新田サドベリースクールも7月25日から8月26日まで夏休みとなります。春から夏までのスクールの様子について、ご紹介します。

◎ 実現しました！今年度やりたいこと ◎

今年度のはじめに、この1年間でやってみたいことを子どもたちと話し合いました。そのうちのいくつかは、子どもたちが実行委員をつくってあっという間に実現させてしまいました。

4月に挙がった、子どもたちからの「やりたいこと」リスト



4月からの3か月で、これだけ実現しました。

やりたいことがあったら、子どもたちが「実行委員会」を作って話し合いを重ねながら実現にこぎつけます。高学年生は、話し合った内容を1枚のチラシにまとめて保護者に配れるようにしてくれることも。話し合いの過程でわからないことが出てきたら、自ら現地に電話で問い合わせたりインターネットで調べるなど、実現までの流れも回を重ねるごとに洗練されてきました。

★5月2日～複数回 海水浴★

鳥取の城原海岸がお気に入りです。



★5月20日 魚釣り★

賀露港にてコノシロ大漁！その場で素揚げにして食べました。



★6月8日 科学実験★

鳥取大学の丹松先生はじめ4名の講師を招いて実現！



★6月29日 BBQ★

生徒宅で実現。予算を立てて、前日に子どもたちだけで買い物をしました。

スタッフ さとちゃんの感想「科学実験を終えて」

昨年来生徒たちからずっとリクエストのあった科学実験。いよいよその当日、印象に残ったのは子ども達の集中力と理解力の高さでした。サドベリースクールはすべての活動が子どもたちの自主性に任されているため、「規律が守られないのではないか？」というご質問をいただくことも多いのですが、それは言い方を変えれば日々とても大きな自己責任を負わされているということ。実験は危険を伴うものもあったため注意事項も多かったのですが、1年生から6年生まで一度で説明を理解し、2時間に及ぶ様々な実験の間大人が一度も声をかけずとも子どもたち同士で声を掛け合い注意を促しあいながら、とても真剣に意欲的に実験に取り組んでいました。この日を境に、ますます「子どもたちの力を信じよう！」と思えたさとちゃんでした。夏休み以降の活動の広がりや深まりも、とても楽しみです！

アメリカ・サドベリーバレースクール探訪記

新田サドベリースクール 長谷洋介

3月末、アメリカのボストン近郊にあるサドベリーバレースクールを3日間訪ねた。

智頭町森のようちえんの附属学校を創りたいと去年始めた新田サドベリーだが、そのモデルとしているのがこのアメリカのサドベリーバレースクールだ。子どもたちの様子と卒業後の進路・スタッフの子どもに対する関わり方・運営の事・・・など、たくさんたくさん見たいこと、聞きたいことがあったが、要は子どもたちやスタッフがどんな顔をして過ごしているか、実際の現場に行ってみないと分からないことを確かめに胸を膨らませながら訪ねたというわけだ。

ドキドキしながら訪ねた初日、そこで過ごした数時間のうちでまず感じたのが「こんなに子どもたちが穏やかに安心して過ごせる素敵な学校が世界にはあったのか」という驚きだった。広い芝生の敷地の真ん中に建つかつての富豪の邸宅。そこを校舎に活動は展開される。3日間共に天気の良い日だったが、外の芝生で読書をする姿・別棟で音楽に没頭する姿・外の岩山で秘密基地を作る姿・本館で友達と談笑する姿・絵を描く姿・・・そのどれもがその子その子のタイミングに委ねられており、誰から何かを強制される訳でもなく気持ち良さそうに、誰もが自信を持って、そして安心して時間を過ごしていた。

なかでも、小学生くらいの年齢の子どもたちが無邪気に外でバスケットボールをしたり、工作室でお絵描きに没頭したりと力いっぱい遊んでいる姿と、高校生くらいのお兄さんお姉さんが落ち着いた雰囲気の中議論したり、レポートを書いたりしている姿を見ると、「ああ、年齢に応じて段々と社会に巣立っていく準備をしていっているのだ。」と腑に落ちるような気がした。

最近この学校に転校してきた高校生2人の、「この学校に転校出来て本当に良かった。自分が人生でした選択で1番良い選択だった。」と語ってくれたあの穏やかな顔が印象に残っている。その2人は今与えられている豊富な時間の中で、改めて自分を見つめ、今後の自分の人生を力強く歩んでいく準備をしている。もちろん、この2人だけでなく、ここに在籍する170余人の子どもたちそれぞれが、それぞれに安心した穏やかな顔つきで毎日を過ごしていた。

学校の目的が「生活の要求に対して、自力で、かつ継続的に、さらにはまた成功裏に対処する能力を養う」ことだとしたら、そこに至る過程として多様な道のりが社会に用意されていても良いと感じている。その多様な選択肢のうちの1つとしてサドベリースクールが認められていくように今後も活動を続けていきたい。

●おすすめ図書：『世界一素敵な学校』 ダニエル・グリーンバーグ著



左から長谷、サドベリースクールの創設者であるダニエル・グリーンバーグ氏とミムジー・サドフキシー氏

おしらせ

アメリカ・サドベリーを見てきた長谷が、お話しをます！興味のある方は、ぜひお越しください！

自然を活かした子育てフォーラム in とっとり 分科会 1-C にて
8/7 (日) 10:00~11:30
智頭町旧山形小学校

詳細&お申込みは
<http://marutanbou.org/shizen-kosodate/>
にて